



プレスリリース

「モバイルルーター電波状況実測および利用意向調査」

- **ワイモバイルが下り 25.22Mbps、上り 7.93Mbps と、ともに通信速度で優勢。**
- **UQ WiMAX は下り 22.37Mbps、上り 4.48Mbps。下りは十分な速度も、上りでやや苦戦。**
- **モバイルルーター未利用者の 40.7%は、「月額料金が安ければ、利用を検討したい」。**
- **モバイルルーター 2 キャリアの新料金プランは、「ワイモバイル」支持が 45.7%。**

株式会社 ICT総研（東京都千代田区）は 3 月 4 日、モバイルルーター電波状況実測および利用意向調査の結果をまとめた。当社では、さまざまなシーンでスマートフォンなどを対象に通信速度、つながりやすさの調査、ユーザーの利用実態調査を実施してきたが、今回の調査では、調査対象をモバイル Wi-Fi ルーター（以下、モバイルルーター）に絞った。モバイルルーターで人気を博している 2 つの携帯電話キャリア「ワイモバイル」（旧 イー・モバイル）と「UQ WiMAX」（UQ コミュニケーションズ）の最新機種を使って、電波状況の実態を実測調査の形で把握することを目指すとともに、両キャリアとも魅力的な新料金プランを最近打ち出していることから、Web アンケートにより、その利用意向実態の把握も目指した。

電波状況実測調査は、全国 7 都市 50 地点にて、各モバイルルーターと「Nexus 7」を無線接続し、速度測定アプリ「RBB TODAY スピードテスト」を利用して下り通信速度、上り通信速度を各 3 回ずつ測定する形式とした。50 カ所の測定地点は、4 月から新生活を始める上で重要となる、各エリア拠点都市の主要駅、ビジネス街、大学という視点で選定した。利用意向調査は、モバイルルーターなどの「データ通信専用端末」を現在利用していない回答者 1,000 人に対して、Web アンケートを実施し、どちらの最新の料金プランが魅力的かを質問する形式とした。調査期間は 2 月 19 日から 3 月 1 日まで。

■ **ワイモバイルが下り 25.22Mbps、上り 7.93Mbps と、ともに通信速度で優勢。**

実測の結果、今回調査対象とした全国 50 地点全てで、ワイモバイルは高速通信「AXGP」または「LTE」の電波を受信できた。通信速度で見ると、下り通信速度（ダウンロード速度）が平均 25.22Mbps、上り平均が 7.93Mbps と、ともに UQ WiMAX の数値を上回った。特に仙台（下り平均 28.02Mbps）、東京（下り平均 27.29Mbps）などの都市では 30Mbps 近い結果を見せるなど、7 都市中 5 都市の下り速度で優勢。50 地点のうち、下り速度が 1 ケタに留まった地点が 1 つもなく、10Mbps 台が 8 地点、20Mbps 台が 35 地点、30Mbps 台が 7 地点と、全体的に安定した速さを記録した。旧イー・モバイルの LTE 網に加えて、ソフトバンクモバイルの LTE 網も利用できることで、通信環境が安定しているものと考えられる。

■ UQ WiMAX は下り 22.37Mbps、上り 4.48Mbps。下りは十分な速度も、上りでやや苦戦。

UQ WiMAX も、全国 50 地点全てで高速通信「WiMAX 2+」の電波を受信できた。当社で実施した前回調査(2014 年 8 月「東名阪 100 地点 モバイルルーター電波状況実測調査」)実施時には「WiMAX 2+」の受信比率は 89.0%であったが、提供エリアが確実に拡大している様子が見て取れる。通信速度で見ると、下り通信速度が平均 22.37Mbps、上りが平均 4.48Mbps と、下りは高速通信として十分な通信速度を記録したものの、上りはやや苦戦した形になった。都市別では、広島(下り平均 25.34Mbps)、福岡(下り平均 25.56Mbps)の 2 都市で優位な結果を見せた。50 地点のうち、下り速度 20Mbps 以上が 34 地点あったものの、1 ケタに留まった地点が 3 地点ほど見られた点が、全体平均を結果的に押し下げた。

■ モバイルルーター未利用者の 40.7%は、「月額料金が安ければ、利用を検討したい」。

モバイルルーター未利用者の今後の利用可能性を探るべく、現在モバイルルーターなどのデータ通信専用端末を利用していない回答者 1,000 人に対して、「月額料金が安かったら、モバイルルーターを利用する可能性はあるか？」を質問した。その結果、40.7%が「月額料金が安ければ、利用を検討したい」と回答。そのうち、「自宅の固定インターネットの代わりに、モバイルルーターの利用を検討したい」が約 1/3 を占めており、自宅の固定回線の代替需要としてのモバイルルーターの存在が一定程度存在することが読み取れる。

■ モバイルルーター 2 キャリアの新料金プランは、「ワイモバイル」支持が 45.7%。

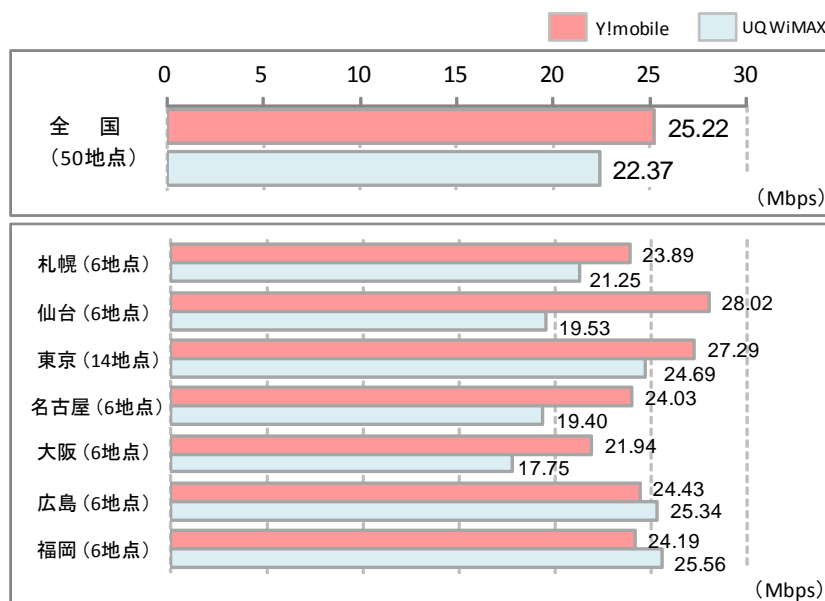
モバイルルーターで人気を博する「ワイモバイル」と「UQ WiMAX」の 2 キャリアが最近発表した新料金プランについて、どちらが魅力的に見えるか？を、前問で「月額料金が安かったら、モバイルルーターの利用を検討したい」を選択した回答者 407 人に対して質問した。その結果、「ワイモバイル」を支持する回答が 45.7%となり、「UQ WiMAX」の 11.8%を大きく上回った。下り最大速度では UQ WiMAX が勝っているものの、より月額料金が安い点が、ワイモバイル支持の方が上回った要因と考えられる。

なお、42.5%出現した「どちらも利用したいと思わない」とする回答者は、「上記 2 キャリアの新料金プランが魅力的だと感じない」もしくは、「NTT ドコモ、au、ソフトバンクモバイル、その他 MVNO 事業者などの料金プランを、より魅力的だと感じる」などが含まれる。

今回の実測調査で、ワイモバイルと UQ WiMAX の 2 社平均の下り通信速度は 23.80Mbps。全国 50 地点と限られた地点数であることから単純比較はできないものの、前回調査(2014 年 8 月)実施時には 2 社平均 19.22Mbps だったことから、高速通信提供エリアの拡大と、通信速度の実測値の改善が進んでいる様子が十分にうかがえた。また、このモバイル高速通信網の整備によって、固定回線の代替需要としてモバイルルーターを利用するニーズがあることも、アンケート結果から確認できた。

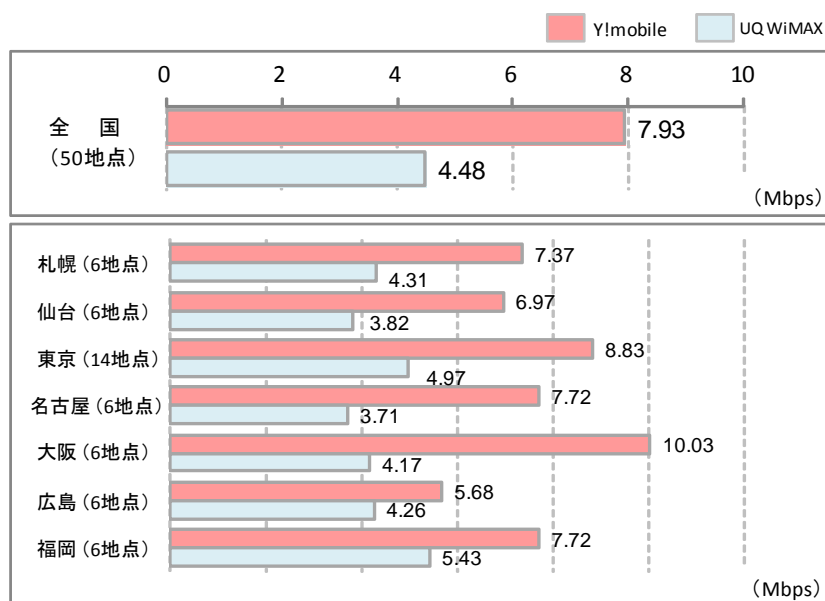
ICT 総研では今後も、「つながりやすさ」や「通信速度」について、ユーザーが利用するさまざまなシーンを想定し、ユーザーにとって指標となる実測データを定期的に提供していくとともに、多様な切り口でユーザーの利用実態の把握にも努めていく方針である。

表1. 全国50地点 モバイルルーター下り通信速度



* 下り通信速度 …… ダウンロード通信速度

表2. 全国50地点 モバイルルーター上り通信速度



* 上り通信速度 …… アップロード通信速度

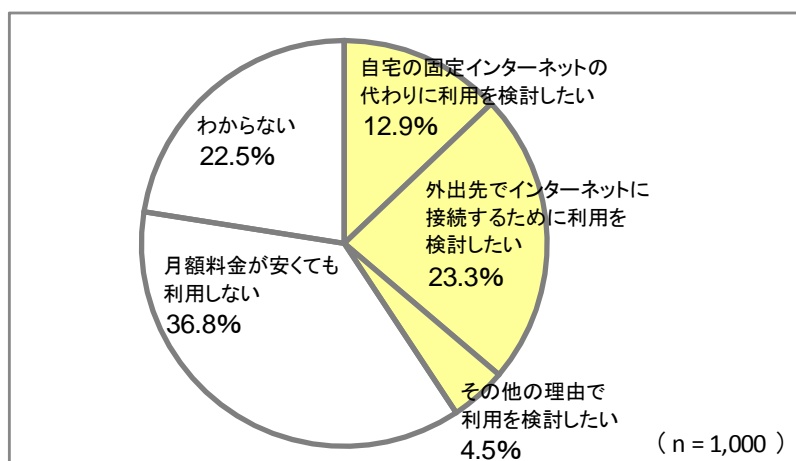
* 測定期間は、2月19日から3月1日まで。

* 測定端末は、ワイモバイルが「305ZT」、UQ WiMAXが「W01」。

* 通信速度は、速度測定アプリ「RBB TODAY スピードテスト」を利用して測定。1地点あたり下り速度、上り速度を3回ずつ測定し、平均値をその地点の速度とした。

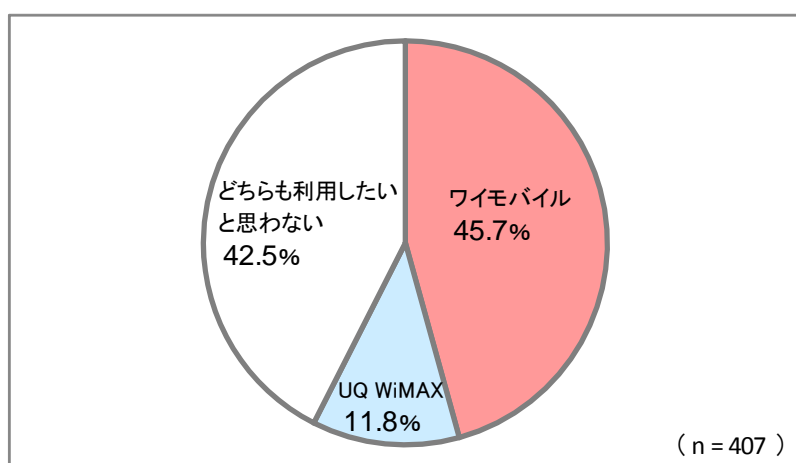
* 駅は主要な改札口付近(地下鉄駅は地上出入口付近)、オフィスビルや大学は主要な入口前を測定地点とした。

表3. (未利用者が)モバイルルーターを利用する可能性は？





* モバイルルーターなどのデータ通信専用端末を利用していない回答者に対して、「月額料金が安かったらモバイルルーターを利用する可能性はあるか」を質問した結果。

表4. モバイルルーターの料金プラン、どちらが魅力的？



* 「月額料金が安ければ、モバイルルーターの利用を検討したい」を選択した回答者に下記の料金プランを見せて、「もし利用するとしたら、どちらの料金プランを利用したいか」を質問した結果。

【参考】「ワイモバイル」と「UQ WiMAX」の新料金プラン

キャリア名 (ブランド名)	料金プラン名	下り通信速度	月額料金	LTEオプション	契約縛り 年数	通信速度制限
ワイモバイル 	Pocket WiFi プラン+	下り 最大165Mbps	月額 3,969円	無料	2年契約	今なら2年間実質制限なし。 ※(2年目以降は7GBを超えた場合には制限あり)
UQ WiMAX 	UQ Flat ツープラス ギガ放題	下り 最大220Mbps (未対応エリアでは、 下り最大110Mbps)	月額 4,380円 (最大3カ月間は 月額3,696円)	有料 1,005円 (2015年5月末 までは無料)	25カ月間契約	1カ月あたりの通信容量 制限はなし。 ※(LTE通信で7GBを超えた 場合は制限あり)

【参考】全国50地点 測定場所一覧

1	札幌	札幌駅	26	東京	東京大学
2	札幌	大通駅	27	名古屋	名古屋駅
3	札幌	すすきの駅	28	名古屋	栄駅
4	札幌	JRタワー	29	名古屋	丸の内駅
5	札幌	シティタワー札幌大通	30	名古屋	ミッドランドスクエア
6	札幌	北海道大学	31	名古屋	JRセントラルタワー
7	仙台	仙台駅	32	名古屋	名古屋大学
8	仙台	北仙台駅	33	大阪	新大阪駅
9	仙台	勾当台公園駅	34	大阪	梅田駅
10	仙台	仙台トラストタワー	35	大阪	心斎橋駅
11	仙台	東北電力本店ビル	36	大阪	梅田スカイビル
12	仙台	東北大学	37	大阪	あべのハルカス
13	東京	東京駅	38	大阪	大阪大学
14	東京	新橋駅	39	広島	広島駅
15	東京	品川駅	40	広島	八丁堀駅
16	東京	新宿駅	41	広島	県庁前駅
17	東京	渋谷駅	42	広島	アーバンビューグランドタワー
18	東京	池袋駅	43	広島	紙屋町交差点
19	東京	秋葉原駅	44	広島	広島大学
20	東京	丸ビル	45	福岡	博多駅
21	東京	新丸ビル	46	福岡	天神駅
22	東京	六本木ヒルズ	47	福岡	中洲川端駅
23	東京	東京ミッドタウン	48	福岡	JR博多シティ
24	東京	新宿アイランドタワー	49	福岡	キャナルシティ博多
25	東京	東京都庁	50	福岡	九州大学

* 4月から新生活を始める上で重要となる、各エリア拠点都市の主要駅、ビジネス街、大学という視点で選定。

* 本資料における全ての文章、数値、表、データは、調査実施時点のものである。

* 本資料に記載された文章、グラフ等を報道、各種ホワイトペーパー、セミナー資料、学術研究資料等に転載する場合は、「ICT 総研調べ」「出典:ICT 総研」などの表記を加えて下さい。

■本リリースに関するお問い合わせ先

株式会社 ICT 総研 広報担当

〒101-0041 東京都千代田区神田須田町 1-4-4 神田須田町ビル 3 階

TEL:03-6206-0941 ホームページ: <http://www.ictr.co.jp>